



# くじらの博物館に行こう!

—見て学んで楽しい、くじらとふれあう—



オキゴンドウ、カズハゴンドウ、コビレゴンドウなど9種類のくじらたちが泳ぐ博物館。くじらの生態に関する資料や400年以上の人とくじらとの関わりを物語る様々な歴史資料もたくさんあり、天井からは大きなくじらの骨が吊り下げ展示されています。



太地町は400年以上にわたって、クジラと深く関わってきた「クジラの町」として知られています。町内に位置する太地町立くじらの博物館は、鯨類に特化した全国でも数少ない施設です。捕鯨の歴史や文化、そして鯨類の生態に関する資料を展示するほか、鯨類を中心とした熊野灘に生息する様々な生き物を展示するなど、博物館と水族館の要素を併せ持った展示を特徴としています。

ショーやふれあいイベントも充実しており、五感で体験し、楽しみながら「クジラ」について学ぶことができる施設となっています。

## おうちで博物館を楽しむ! 【360°パノラマ体験】

おうちのパソコンやスマホから「くじらタウン」の専用ページを開くと、そこはもう、くじらの博物館。実際に博物館を訪れたかのように、建物の中を自由に歩きまわり、展示資料を見ることが出来ます。おうちにいながら「くじらの博物館」体験を楽しもう!



↓ココからスタート!



太地町立くじらの博物館  
学芸員 中江 環さん

本物の骨や生きたくじらを見て感じたことは本やネットからは得られない貴重な経験です。博物館にきたら自分の五感をとぎすませてみてください。きっと「見つける喜び」「見る喜び」「知る喜び」を体験してもらえと思います。そこから得られた疑問や発見をぜひお土産におうちに持って帰ってください。

# くじらに会いに行こう!

—大きな海で感動の出会い—

みんなは本物のくじらを見たことがありますか?

広い海でどっしりと優雅に泳ぐ姿は迫力まんてん。

そんな魅力的なくじらに、さっそく会いに行きましょう!

串本町

那智  
勝浦町

太地町



## ホエールウォッチング

紀南の海はホエールウォッチングのメッカとしても知られるスポットだ。船の上からじっくりと、大きなくじらを観察。全長18mにもなるマッコウクジラをはじめ、さまざまな種類のくじらに出会えるチャンスかも!?



## シーカヤック

水面に近い高さから、くじらと一緒に海を周遊。シーカヤックで海にこぎ出せば、船とはまったくちがう別世界がきみを待っているぞ。場所は波の静かな湾内だから初めてでも安心。さあ、潮風にさそわれてレッツゴー!!

太地町



## サップ SUP

正式名はスタンドアップパドルボード。ボードの上に立ってパドルでこいで進む新しい水上スポーツだ。穏やかな湾内でのんびりとくじらと一緒に海上散歩を楽しもう。

太地町



## 餌あげ体験

太地町にはコビレゴンドウやハナゴンドウなど、たくさんのかじらが暮らしているよ。一年中くじらに出会える場所として人気。エサをあげて、食べ方を観察してみよう。

太地町

## ビーチでふれあい

ぬれても大丈夫な胸付きの長靴を着て、くじらのトレーナーさんと一緒に海の中へ。目の前でイルカの動きや大きさを体感しながら、優しくふれることができる。



## 海上遊歩道の散策

海の上を散歩しているような感覚。湾内にのびる一本道をライフジャケットを着て歩けるようになっている。海の中にはくじら。運がよければジャンプが見られるかも!?

太地町





【座頭鯨網掛之図】

細かく描かれた絵図が昔の古式捕鯨の様子を伝える



## 日本遺産とは

みんなが暮らす町のすばらしい歴史や特色を「日本遺産」として国が認めたもの。未来に残したい伝統や文化を分かりやすく「ストーリー」にして、観光や地元グルメなどに活用し、世界中にその魅力を発信しています。和歌山の「鯨とともに生きる」のほかに、全国では104件が日本遺産に認定されています(2021年3月末日現在)。

# くじら 鯨とともに生きる

## ～くじらと人の物語～

昔から和歌山はくじらと深い関係にあります。北の冷たい海で餌を食べて太ったくじらが、冬になると、南の暖かい海を目指して熊野灘を通り過ぎます。それを狙うのが熊野の古式捕鯨でした。くじらの来遊を見張る「山見」は岬の高い崖の上にあり、くじらの潮吹きを発見すると法螺貝を吹き鳴らし、旗や狼煙を使って、海上に展開した鯨船に指示を出しました。極彩色に彩られた勢子船、網を張る網船、くじらを運ぶ持左右船など、たくさんの船に乗り組んだ数百人の男たちが一頭の鯨を追いかけてきました。手漕ぎの船と手投げの罾で大きな生き物に挑んだ古式捕鯨は、大掛かりな漁業でした。熊野地方の各地に、人々がくじらと深く関わっていたことがわかる資料や史跡が数多く残っています。串本町、那智勝浦町、太地町そして新宮市に残るそれら有形・無形の文化財を通じて語り継がれる熊野灘の捕鯨文化のストーリーが、文化庁によって2016年に日本遺産に認定されました。

## 《ストーリーの舞台》



県の無形民俗文化財に指定される「太地のくじら踊」

### 太地町

古式捕鯨の発祥地で、現在も漁が行われている町。町内にはくじらに関する数々の史跡が残り、食文化をはじめ伝統が息づく。



三輪崎にやってくるくじらを見張った「鯨山見跡」

### 新宮市

捕鯨基地として栄えた三輪崎のほか、世界遺産にも登録される熊野古道・高野坂を有し、深い歴史と人々の営みを感じさせる。



和歌山の日本遺産「鯨とともに生きる」のロゴマーク

和歌山県  
明光小島  
若木 勇気  
さん

# いさん 日本遺産ストーリー

## ほげい れきし 古式捕鯨の歴史

熊野では、早くも江戸時代の初めに組織的な捕鯨が始まり、初めは銚だけでくじらをつきとっていましたが、後に、くじらを網に絡ませてから銚を打ち込む「網かけ突き取り法」が発明され、死ねば海底に沈む可能性があるザトウクジラも獲るようになりました。くじらが弱ったところで若者がくじらの背にのぼり、くじらの鼻または背中に包丁で切り込みを入れ、網を通し、船に結びました。鯨捕りは、最期に念仏を唱えてくじらの成仏を願ったといえます。

## くまの すいぐん まつ えい かつ やく 熊野水軍の末裔が活躍

漁を仕切っていたのは、歴史的にも有名な源平合戦で活躍した「熊野水軍」の子孫だったといわれています。勇気と団結力があり、海の民として泳ぎも得意で、操船や造船の技術も豊富。さらに、海岸の複雑な地形も助けになって、高台からはくじらをいち早く発見。巨大なくじらを引きあげる浜があったことも、有利に働きました。

## くじら はん えい 鯨がもたらした繁栄

漁には500人以上の人が関わり、それぞれが役割を分担。高台からくじらを見張る人(山見)、くじらにモリを打ち込む人(羽指)、仕留めたくじらを運ぶ人、道具を管理・修理する人などさまざま。また解体や加工は別の人が行い、肉は塩漬けにして出荷。骨や皮からは油をとって、ヒゲや筋は道具の材料に使用。余さず活用していました。

## つ ほげい 受け継がれる捕鯨文化

昔とは形を変えながらも、太地町では古式捕鯨の伝統を守りながら、近海で小型鯨類の捕鯨が行われています。人とくじらの結びつきの深さを感じさせるのは、くじらを主役にした祭りや伝統芸能。美しく飾られた「御舟の渡御」や、くじらをつましく再現した「鯨踊」など、さまざまな行事が地域ごとに受け継がれています。



勝浦漁港の市場ではすらりと並ぶ生マグロを見学できる

な ち かつうら  
**那智勝浦町**  
日本遺産と世界遺産の文化にふれつつ、生マグロの水揚げ量日本一を誇る漁業の町としての顔も持ち、温泉地としても知られる。



山見跡に立つ「檜野崎灯台」は日本最古の洋式石造

**串本町**  
紀伊半島の先端に位置する町で、海の絶景のほか、サンゴや熱帯魚など水中にも美しい景色が広がり、海中展望塔から観察できる。